

技術・家庭科学習指導案

指導者 笹木世絵

1 日時 令和元年10月8日(火) 6校時

2 学級 2年3組 男子14名 女子18名 計32名 東校舎3階2年3組教室

3 題材 B(7)衣食住の生活についての課題と実践 ～食生活の課題と実践～

4 題材について

本題材は中学校指導要領 技術・家庭 家庭分野の内容B「衣食住の生活」(7)にあたる。食生活、衣生活、住生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、課題を解決する力と生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことをねらいとしている。今回は既習事項との関連から食生活に関する問題を課題として捉え、取り組むこととした。

和食とだしに関する基礎的知識・技術を習得し、これまで学んだ基礎的な日常食の調理の技能を活かし生活を見つめた課題を解決するために、主体的に計画を立てて家族のために調理することの喜びを味わい、自ら調理することを通して食生活に対する関心を高め日常生活への実践につなげようとする態度を育てることを題材の目標としている。和食は平成25年12月4日に「和食；日本人の伝統的な食文化」としてユネスコ無形文化遺産に登録が決定された。しかし、1学期に2学年生徒にとったアンケートによると「和食を好きですか」という質問に対し84%が「好き」、「だしのよさは何か」に対し42%が「おいしくなる」と答えたが、「家庭でだしを使っていますか」に対し28%が「分からない」「全く使わない」と答えた。この結果から和食の良さを感じてはいるが、大人も子供も忙しい生活を送っている現状から「だし」については手軽さ、価格を優先され、味や香り、だしのとり方の知識や技能は習得されておらず食文化の伝承も薄れている現状が見られる。

この題材を通してもう一度和食の良さを見直すきっかけになればと考える。生徒が主体的・対話的に学ぶために、技術・家庭科では「知識構成型ジグソー法」を用い、自己内対話と他者の対話を通し考えながら学ぶ場面を設定し、深い学びにつなげていきたいと考え実践を重ねている。

5 本時の達成目標

だしの特徴を理解し、エキスパート学習内容や他者の意見を基にして自己決定したことを記述することができる。

6 評価場面での生徒の記述例

【知識・理解】

| おおむね満足 B | 十分満足 A |
|---|--|
| 私は、お吸い物をつくってみようと思いました。 なぜかという、今までインスタントのお吸い物しか作ったことがなかったから、昆布でだしをとってみたいと思いました。 | 私は、昆布だしを使ってお吸い物をつくりたいと思いました。 なぜかという、今日の学習でうまみ成分がグルタミン酸だということが分かったし、天然だしだと減塩ができて健康にいいということが分かったからです。 |

7 振り返りの場面での生徒の記述例

これまで、自分はだしについて考えたことはありませんでした。
今日の授業で、だしのとり方や成分について知ることができました。他の班の意見が様々あり、自分以外の人の意見を聞き、参考になりました。中でも〇班の意見は予想外でした。
これからは家族の健康のため家で天然だしをとってみたいです。

8 本時の展開

| 段階 | 学習内容 | 指導上の留意点 評価の観点・方法 ◆教材・教具など |
|-----------|--|---|
| 導入 5分 | 1 前時までの学習内容を確認する。 2 既習内容を確認する。 3 学習課題を把握する。 | 1 だしについて、自分たちが知りたいことはなんだったか確認する。 |
| 展開 40分 | <p style="text-align: center;">だしの特性を生かした一品を考えよう</p> <p>【主体的】一人一人が課題を自覚し、「当面問うべき問い」を共有する。</p> <p>第1ステップ 4 学習課題に対する今の段階での自分の答えを記入する。</p> <p>第2ステップ 5 ジグソー学習に取り組む（小グループ）。 ・それぞれの特徴についてエキスパート学習の学びを交流する。</p> <p>【対話】一人では十分答えが出ない問いに対して、答えの部分となる自分だけ知っている状況を作り、「伝えたい」「聞きたい」自覚を高める。</p> <p>・エキスパート学習内容をもとに各だしの特性をとらえ、表にまとめる。</p> <p>ラストステップ 6 クロストーク活動を行う（全体）。 ・グループで学んだことを発表する。</p> <p>7 今日の学習課題についてジグソー法、クロストークを基に再度自分の考えをまとめる。</p> <p>【主体的】もう一度課題に対して自分のことばで表現することにより、学びの自覚を促す。</p> | <p style="text-align: center;">エキスパート学習のパーツ</p> <p>A 昆布 B 煮干し C かつおぶし D 合わせだし E だしの素</p> <p>◆学習シート</p> <p>5 ジグソー学習の進め方について確認する。 ・エキスパート学習で調べた視点について、Aから順番に説明させる。 ・気づいたことなどはプリントにメモを取るように伝える。 ◆学習シート</p> <p>・班ごとに特性を表にまとめさせる。 ◆画用紙・マジック</p> <p>6 他のグループの発表を聞き、課題に対しての理解を深める。 ・発表に対し質問が出た場合、グループが答える。</p> <p>7【知識・理解】 だしの特徴を理解し、エキスパート学習内容や他者の意見を基にして自己決定したことを記述している。（学習シート）</p> <p>A：ジグソー学習やクロストークで交流したことを基に学んだ内容と理由を根拠となる視点に触れながら、自分の考えを記述している。 C：ジグソー学習やクロストークで交流したことを想起させる</p> |
| 終末 5分 | 8 学習活動を振り返る。 | <p>【リフレクション】本時の課題に対して授業の初めと終わりでのように変容したか、という観点から振り返らせ、自分の学びに対する「気づき」を認知する。また、これからの生活についても視点を向けさせる。 ◆リフレクションカード</p> |

9 指導と評価の計画

| 2 年 技術・家庭 | | 題材名B 衣食住の生活 「課題と実践」 内容B (7) ア | 総時間 3時間扱い |
|--|--|---|---|
| 学習指導要領の指導事項 | | | 題材の目標 |
| B 衣食住の生活 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活, 衣生活, 住生活の中から問題を見いだして課題を設定し, その解決に向けてよりよい生活を考え, 計画を立てて実践できること。 | | | 和食とだしに関する基礎的知識・技術を習得し, これまで学んだ基礎的な日常食の調理の技能を活かし生活を見つめた課題を解決するために, 主体的に計画を立てて家族のために調理することの喜びを味わい, 自ら調理することを通して食生活に対する関心を高め日常生活への実践につなげようとする態度を育てる。 |
| 時 | 主な学習活動 | おおむね満足 (B) | |
| 1 | 和食のよさが見直されている現実と和食にはだしが欠かせないことを知る。 単元を通しての課題を知り, 解決の方法を知る。 前時に出した「和食について知りたいこと」をエキスパート班 (小グループ) に分かれ, 学習をする。 | 工 だしについて知りたいことを記述することができる。 | |
| 2 (本時) | 各だしについて知り, 家庭の実践で使用するだしを選択することができる。 | 知 だしの特徴を理解し, エキスパート学習内容や他者の意見を基にして自己決定したことを記述している。(学習シート) | |
| 3 | 課題を解決するために自分で決めただしを使った調理計画を立てることができる。 | 技 課題を見つけることができる。1 食分の調理計画を立てることができる。 関 生活文化の継承をするために自分は何ができるか根拠をもとに記述することができる。 | |